

文書館だより

TEL027 (221)2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

第61号

平成30年9月



前橋（川越）藩大津陣屋他、三浦海岸配備絵図（部分、嘉永6年6月以降）
P 9 4 0 9 No. 1 7 6 * 縦 52.8 cm × 横 143.9 cm、彩色

平成30年7月21日より、当館ではテーマ展示「上州の幕末・明治維新・1500年前のふるさと」を開催中です（11月4日まで）。

上の絵図は、嘉永6年（1853）6月、米使節ペリー浦賀沖来航時の三浦半島南部（現神奈川県横須賀市・三浦市）の警備状況が描かれています。左下（南東部）の大型帆船（蒸気船ではない）は、浦賀・久里浜沖に停泊し、多数の小舟が取り囲んでいます。この後ペリーは、久里浜に上陸し、フィルモア大統領の国書を浦賀奉行に手渡ししました。絵図右側の観音崎沖合には、日本側の帆船が多数描かれています。

近景には、右（北）から川越藩（後の前橋藩）大津陣屋・観音崎・浦賀・久里浜（以上横須賀市）、三崎・城ヶ島（同三浦市）などが、遠景（上画像に無し）には伊豆半島、箱根山、富士山、大山、江ノ島等が描かれています。また、百五十間四方の大津陣屋、走水道、旗山崎御台場、十石山御台場、観音崎御台場、舟番所、燈明（堂）、浦賀奉行陣所、船番所、三崎町、御陣屋、安房ヶ崎御台場、城ヶ島篝火、大島十八里、新島百里余などの文字が読み取れます。

この絵図は、2階閲覧室の大型絵図専用機で原本を御覧いただけます。

新館長就任にあたって 浅田正人

今年の4月から、文書館長に就任いたしました浅田です。どうぞ、よろしくお願いたします。

文書館は、歴史的公文書、古文書を集・整理・保存するアーカイブズ施設ですが、それ以外にも、教育普及活動、全歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）及び同関東部会に関する業務、群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会（群文協）に関する業務など、多岐にわたっております。

しかし、その業務の重要性に比し、認知度があまり高くないというのが現状であり、広報に積極的に取り組み、少しでも知名度を向上させたいと考えています。

話は変わりますが、8月に「陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった」という映画を見ました。

太平洋戦争の末期に、旧群馬町（高崎市）に建設された「前橋飛行場」を巡るドキュメンタリー映画で、鈴木越夫さんの原作を、前橋市出身の飯塚俊男監督が映画化したものです。

飛行場建設や前橋空襲などに関する数多くの住民の証言を収録しており、住民の意向を無視した強引な飛行場建設、空襲の悲惨さなどがリアルに伝わって

くるもので、印象深い映画でした。

この映画には、福田康夫元首相もインタビューで登場されています。

福田元首相は、かつて前橋空襲の写真を探して、アメリカの国立公文書館を訪れましたが、「前橋」という日本の地方都市の写真がよく整理され、誰もがすぐに利用できることに驚いたという経験を持ち、記録を残すことの重要性を映画の中で語っておられました。

この時の経験から、公文書の保存・管理の重要性を強く認識することとなり、首相在任時にいわゆる「公文書管理法」の法制化を指示し、同法は平成21年に成立することとなりました。

アメリカの国立公文書館には、「What is past is prologue」（過去から引き継がれたものは、未来を生み出す種となる）という言葉が刻まれた石碑があり、映画の中では、その像の前で飯塚監督が記録を残すことの重要性について、訴えています。

現在、文書館には、歴史的公文書が約21万点、古文書が約49万点、あわせて約70万点、県史編纂室から引き継いだ資料を加えると、80万点近い文書等を所蔵しています。

これらの貴重な資料を、「未来を生み出す種」として、将来の世代にしっかりと引き継いでいかなければならないと

改めて強く認識しました。

平成30年度テーマ展示1 「上州の幕末・明治維新 ー150年前のふるさとー」の開催報告

平成30年7月21日より平成30年11月4日まで、標記のテーマ展示を開催しています。本年は明治元年（1868）から満150年に当たり、その年をはさむ幕末・明治維新期の上野国に関する古文書や大型絵図を選び、展示しています。

展示項目は、1天保・弘化期の上州と治安維持、2異国船渡来・開港と生糸売買、3和宮下向、前橋城再築、下仁田戦争、4上州世直し一揆、戊辰戦争、5蚕糸業視察、廃藩置県、他、とし天保期、明治10年の上州の特徴的な歴史を記した文書や大型絵図を精選しました。また、当時の民衆の生活や行動がうかがわれる史料、彩色絵図などを選びました。

項目1は、上州の幕府領・大名領などを徘徊する無宿者として著名な国定村忠次郎（国定忠治）関係で、かつ彼らを取り締まる幕府の関東取締出役が記されている文書を選びました。また、国定忠治が関所を破り、後に付近の川原で処刑された「大戸関所周辺絵図」を展示しました。項目2は、嘉永6年（1853）ペリー来航と翌年の再来日、和親条約締結に関する情報が上州にどのように伝

えられたかという視点で「川越藩（後の前橋藩）大津陣屋他、三浦海岸配備絵図」（表紙）など絵図3点と赤堀家文書「外夷来艦誌一」を展示しています。項目3は、公武合体政策による皇女和宮下向について、一行の宿泊前後3日は旅人往来差し止め、警備の厳重などが記された「御触書之写」（写真）などの文書です。

慶応期の前橋再築城は、絵図2点と領内からの献上金者書き上げの文書を展示しています。下仁田戦争については、地元の家文書の店卸帳に詳述された部分、戦死高崎藩士の法名・享年などが記された木版の文書です。項目4は、慶応4年（1868）に発生した上州世直し一揆について記した文書、新田俊純筆の猫絵も展示しています。項目5は、明治2年（1869）、製糸業視察のため上州を訪れたイタリア公使夫妻一行を描いた錦絵、

西郷隆盛の生涯を讃えた「西郷和讃」（写）なども展示しています。ぜひ御来館ください。



御触書之写（部分、文久元年） P 8206 No.2161

古文書の世界へようこそ！
古文書解読講座への招待

当館の古文書解読講座は開館以来毎年開講されてきましたが、一般の方の人氣が高く、今年度も各講座に対し、定員を大きく上回るお申込みを頂きました。

古文書入門講座は5月下旬から全5回、当館古文書係長を講師に開催されました。群馬県内の宗門人別帳や徳川将軍の書状、明治政府の通達等を読み、くずし字の書かれ方や文書が作成された背景を学びました。受講者の年齢は様々で、皆様熱心に取り組み、質問も出ました。

長期古文書講座は9月上旬から全11回の予定で開講中です。受講の条件はすでに解読の初歩を学ばれた方です。講座では中世から近代までの様々な文書の解読に取り組みます。今年度の講師は国文学研究資料館名誉教授や群馬県立歴史博物館学芸員の方々、および、当館職員です。

過去のテキストは販売しており、解読学習支援のため、解読相談のサービスも行っています。さらに当館のホームページでは、数段階のインターネット講座を開講中です。このように、講座修了後も自分のペースで解読力を高めていくことができます。

講座を修了された方の中には、地域に

伝わっている古文書を解読学習する団体で活躍されたり、地元で保存されている古文書の整理・活用に貢献されている方も多くいらっしゃいます。

古文書は一般に展示ケースや出版物、テレビ、インターネット等を通して接する物ですが、当館では群馬県重要文化財を含む古文書の原本を約24万点、複製資料も約10万点、明治初期の貴重な地図を含む国重要文化財「群馬県行政文書」をはじめとする多くの公文書を閲覧公開しています。解読方法を身につければ、貴重な文書を直接に手に取ってじっくりと読んだり、調べることができます。

歴史の第一次資料である古文書の解読は歴史を学ぶ第一歩でもあります。また、先祖が生きていた社会を知り、自分なりの「ファミリー・ヒストリー」を紡ぐこともできるでしょう。

どうぞ解読講座を入口に、魅力あふれる古文書の世界にふれてみませんか？



入門講座は女性の参加者が多かったです！

学校連携（校外授業・職場体験）

●前橋市立第五中学校 授業協力の報告

平成27年度より始まった、第五中学校1年生（社会科歴史学習）への授業協力も今年度で4年目となりました。

今年度は7月13日（金）に1年生4クラス（112人）がクラス毎に来館し、当館収蔵資料に触れ、郷土の「歴史」そのものについての興味・関心を高めました。普段はあまり見ることのない「歴史」資料に真剣に目を向け、当館職員の説明に熱心に耳を傾ける生徒たちの姿が印象的でした。

普段の生活の中では、「見て」、「聞いて」、「触れる」機会が少ないと思われる郷土の「歴史」。その機会を提供できる施設として、今後も学校との連携を進めていきます。ぜひ、各種学校の「総合的な学習の時間」や「社会科」の学習に、当館の史料をご活用下さい。

●前橋市立木瀬中学校 職場体験

平成30年9月4日（火）から6日（木）までの3日間、木瀬中学校の第2学年の職場体験を実施しました。今回は5名の生徒が参加しました。

1日目、白衣を着用してマイクロ複製本や国の重文が整然と並ぶ書庫を見学しました。そして、閲覧室でカウンター・レファレンス業務に臨みました。利用券

を作成し、地名辞典や地誌、アーカイブビューアーで木瀬地区について調べました。

2日目、午前は古文書にラベルを貼る作業をしました。そして午後には中性紙箱の作成と和とじによる製本作業に取り組みました。製本作業では、針の扱いに苦闘しながらも、全員が好きな柄の題箋を貼って美しい和とじ本を作ることができました。

3日目、3階から地下2階まで、書庫内の温度と湿度を自分の目で確かめました。次に昨年度収集した公文書の排架作業を行いました。文書を収める位置を確認して1冊ごとに正確に収めることができました。午後は1日目のレファレンス体験の続きを行い、明治初期の中学校周辺の様子を絵図から読み取りました。

3日間、体調不良を訴える人もおらず、全員が集中して業務を遂行できました。



昨年10月にインターネットでも話題になりましたが、洪川市北橋町箱田の根井（ねのい）幸江家文書には、安政4年（1857）3月1日に土佐藩江戸屋敷で行われたと思われる御前試合に関する古文書があります。

内容は剣術の対戦表であると思われる、総勢44名、22試合が記されています。「千葉」「斎藤」「桃井」など江戸で盛んであった剣術道場の門下生が、多く参加しています。その冒頭で「斎藤門人 桂小五郎（のちの木戸孝允）」「土州 坂本龍馬」が対戦しています。桂には黒い点が3つ、坂本には2つあり、3勝2敗で桂が勝利したのでしょうか。

この文書の最後には「私右之節他行仕候而残念千萬と存候」と書かれています。書いた本人は直接試合を観戦したわけではなく、他者からの伝聞であり、非常に残念がっている様子が窺えます。

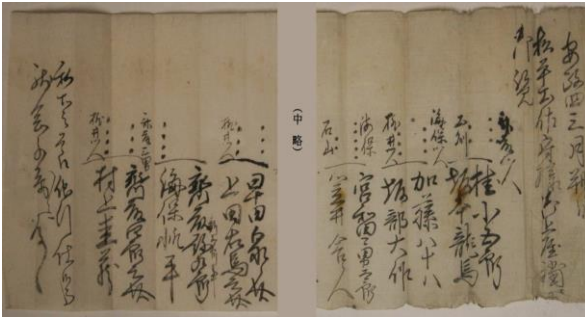
この御前試合が実際に行われたかどうか疑問視もされていますので、今後の研究にも注目です。

文書の所蔵者である根井氏は、木曾義仲四天王のひとり根井行親の後裔であると伝えられています。義仲没落後に遺児を擁護して上野国へ移住したようです。幕末期に前橋藩医沼田一齋の仲介を経て根井家は木曾家に入し、当主を「御館様」と呼んでいました。江戸時代

になって平安時代以来の主従関係が復活するとは驚きです。幕末期の当主は剣術も行っていたので、このような文書が伝来したと考えられます。

根井家文書の公開に携わり不思議に思ったのは「安政の大獄」や「桜田門外の変」「禁門の変」など幕末の動静を伝える古文書が多数存在していることです。江戸時代名主を務めていたお宅には、年貢割付状など村政に関わる古文書はあります。しかし天下の情勢を書き記した古文書を所蔵するお宅は多くありません。なぜそのような情報を必要としたのか、どのような伝手で情報を手に入れたのか、考えてみると面白いですね。

テーマ展示1「上州の幕末・明治維新 1150年前のふるさと」でも展示しました。が、いつでも閲覧室で手にとってご覧いただけますので、ご安心を。



松平土佐守様御上屋鋪ニテ御覽 P9409 No.122-51

全史料協関東部会総会記念講演会の概要報告

全史料協とは、「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の略称です。この協議会は、文書記録を中心とする記録史料を保存し、利用に供している機関会員とこの会の目的に賛同して入会した個人会員で構成する全国団体であり、1976年（昭和51年）に発足しました。機関

会員には、公文書館、歴史資料館、自治体史編さん室、大学資料室等が加盟しており、個人会員には、史料を保存し利用に供する仕事に携わる方々が参加しています。全国団体である全史料協には2つの地域部会（関東・近畿）があり、平成29・30年度の関東部会の事務局を当館が務めています。

去る6月1日（金）、東京都武蔵野市において、全史料協関東部会総会記念講演会（第295回定例研究会）が開催されました。

総会記念講演会は「政治史研究とオーラルヒストリー―概論と実践―」をテーマに、清水唯一朗氏（慶應義塾大学総合政策学部教授）を講師に迎え、ワークショップも交えて開催されました。清水氏は、中央省庁の局長経験者のオーラルヒストリー（口述記録、出来事に関わった人たちから直接話を聞き、記録としてまとめる。）を通じて、政策の意思決定過程

を分析などする政治学研究者です。

講演では、政治史とオーラルヒストリーの関連や、意味と目的、その手法などについての具体的な話がありました。また、「よい聴き取り」を行うために、聴き手、話し手に何が必要かなど、実践的なオーラルヒストリーについての解説がありました。

講演中には、オーラルヒストリーをよりよく知るため、参加者をグループに分けてのワークショップが行われました。1グループは3人で構成され、それぞれ「話し手」、「聴き手」、「観察者」に役割を分担し、交替しながら全ての役割を体験するものでした。それぞれが従事している業務を話題に取りあげ、役割に沿ってオーラルヒストリーの手法に対する理解を深めていきました。講師による参加者の感想・意見の集約や、よりよい方法についてのアドバイスなどが更に活動を盛り上げ、和やかな雰囲気の中にも非常に活発な活動が印象的でありました。より答えを引き出す質問の仕方や、答えを限定させてしまう質問、安心して話ができる「場」の設定など、オーラルヒストリーに対する興味、理解がさらに高まりました。

近年の自治体史編纂事業では、行政の当事者からのヒアリング成果を反映させたものも少なくないそうです。今ある

文字史料をさらに深く理解していくことができるオーラルヒストリーは、「歴史の継承」や「史料の保存」という観点からも、重要な要素になると感じました。

新たに収集した

古文書

- ◆伊勢崎市境木島・高橋辰治家文書
木島村の名主文書、荒木流剣術関係文書、用水絵図等。約100点。(寄贈)
- ◆伊勢崎市境伊与久・高井房義家文書
伊与久村村方文書、伊勢崎藩(県)郷学の五淳堂関係史料。約700点。(寄贈)
- ◆伊勢崎市今泉町・倉林秀昭家文書
伊勢崎藩主酒井忠強の写真(幼少期、藩主時代、晩年)5点。(追加寄託)
- ◆前橋市河原浜町・河原浜区有文書
近世や明治以降の勢多郡河原浜村(旧大胡町)の文書。約1800点。(寄託)
- ◆前橋市富士見町・時中自治会文書
自治会長持ち回り文書。地租改正時の測量図19枚、野帳16冊。(寄託)
- ◆高崎市下大島町・本間辰一氏収集文書
慶応期と思われる、岩鼻役所からの廻状の写し、1点。(追加寄贈)

新たに公開した

古文書

- 沼田市上川田町・藤塚清温家文書
名主文書。沼田煙草に関する文書、藩の通達、越後国の職人に関する文書等。910点(P9516)

- 渋川市上白井・飯塚洋子家文書
田畑質入れ・売買に関する証文、剣術一刀流に関する文書等。1109点(PO0810)

- 前橋市・多加谷敏則家文書
前橋藩士の多加谷家に伝存した文書群。51点(P1108)

- 前橋市・若林茂生家文書
前橋藩士の若林家に伝存した文書群。361点(PO1207)

- 兵庫県・上松徹氏収集文書
高崎市や中之条町、厩橋城関係の史料。3点(P1601)

- 東京都・磯田道史氏収集文書
小栗上野介や北信諸藩の動向等が記された風聞記。磯田氏は歴史研究者。1点(P1702)

- 安中市松井田町・倉持基宏家文書
中山道碓氷峠の卵石にあつた茶屋本陣の文書。和宮下向に関する文書もある。26点(PO1705)

- 高崎市下大島町・本間辰一氏収集文書
近世の碓氷郡下大島村の近世の名主文書。伝馬や検地に関する文書。41点(PO1701)

- 群馬県・中村茂氏収集文書

近世文書。剣崎村との株場争論裁許状写し、天明の浅間噴火関係等。81点(PO1703)

※最後の二つの文書群は同じ家の文書です。

新たに公開した

公文書

「公文書」とは、県や市町村の役場などで、仕事を進める上で受け取ったり作成したりする書類(文書)を指します。日々、数多く作成される「公文書」には、仕事で必要となる期間を想定した、「保存期間」が設定されています。群馬県の場合、保存期間中の公文書は県庁の書庫で保管されています。保存期間が過ぎた公文書は、仕事を進める上で必要となれば保存延長されますが、不要な場合は「廃棄」されます。廃棄される文書は、仕事を進める上では不要となりますが、将来、どのような考え方に基づいて仕事が進められたかを見直したり、新たな仕事を始める上で参考にしたりすることができます。また、作成目的とは違った視点で利用できる可能性も大いにあるのです。そのため、「廃棄される群馬県の公文書から、将来使われる可能性のあるものを選び出し、保存する」という仕事を当館では進めています。

当館が保存する群馬県の「公文書」の

内、整理や保存のための必要な処置等が済んだ文書は、順次公開され、当館2階「閲覧室」で閲覧することができます。平成29年度には、昭和36〜40年度に作成された304点の公文書が新たに公開されました。ここでは、その中から、特徴的な「公文書」を2点ご紹介いたします。

(1) 「国体誘致特委関係綴」A0385B00 No.312(昭和38年)

昭和37年に群馬県知事を会長とする「第22回国民体育大会群馬県誘致委員会」が発足され、開催地申込申請書を提出しました。この時は、当県の他に青森・岩手・千葉・山梨・埼玉が名乗りを上げ、誘致合戦が行われました。結果として、第22回国体(昭和42年)の開催地は埼玉に決定し、群馬県での開催は叶いませんでしたが、各関係機関への陳情書類などからその熱意が伝わってきます。また、県の名所や県内競技場の様子を写真で収めたPR資料からは、当時の郷土の様子を垣間見ることが出来ます。

(2) 「新生活運動」A0180B00 No.65(昭和39年)

道徳運動や、生活環境と習慣の刷新などについて、全国的に運動を進めていた財団法人新生活運動協会。同協会は、東京オリンピック(昭和39年)の開催を受け、各都道府県の「新生活運動協議会」等と協力して、開催国として相応しい国

民性向上のため、聖火コース国土美国民大行進と前年祭を開催しました。本県では昭和38年10月31日・11月1日の2日間開催され、「紙くずのない日本」、「行列を守る日本人」、「花いっぱい日本の群馬県」を重点スローガンとして実施されました。この公文書には、これら行事の計画等についての文書の他、東京オリンピックに関する資料も綴じ込まれています。2020年の東京オリンピックを前に、以前のオリンピックやそれに関わる行事を振り返ってみてはいかがでしょう。

閲覧室から版 くその5く

当館の閲覧室の書架には、約4,000冊の図書や逐次刊行物、目録等が並んでおり、公文書、古文書や郷土の歴史などに関する調べものにご利用いただくことができます。

開架している図書には主に次のようなものがあります。

- 「日本の公文書管理」(松岡資明著)、「地域と歩む史料保存活動」(越佐歴史資料調査会編)など公文書や記録の保存・管理に関する図書

●「群馬県史」(群馬県史編さん委員会編)のほか、県内市町村や他県の自治体史誌

- 「上野国神社明細帳」(丑木幸男編

著)、「上毛及上毛人」(上毛新聞社編)など群馬県を中心とした歴史、民俗等に關する図書、事典類

●古文書解読のための参考図書や「くずし字解読辞典」(児玉幸多編)などの辞書・事典類

●「まんが群馬の歴史」シリーズ(近藤義雄ほか著)など子ども向けの図書

また、逐次刊行物には、当館が刊行した研究紀要「双文」(31号からはウェブでも公開中)や「群馬歴史民俗」(群馬歴史民俗研究会編)などがあります。

これら は全て閲覧室の中 にご覧いただくことができ ますので、ぜひ ご利用ください。 なお、館外への貸し出しは行っておりませ



ん。

資料としてコピーをご希望の際は、利用券の提示と「文書複写許可申請書」の提出が必要になります。1枚につき20円のコピー代がかかりますので、閲覧室の職員にお声がけください。また、文書館を初めて利用する方は利用券を作るため、運転免許証などの身分証明書をお持ちください。

**平成30年度テーマ展示2
明治150年公文書展示会のご案内**

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年に当たります。この節目の年に、本県の明治期の歩みを広く県民の皆様にご覧いただけるように、本館収蔵資料の展示会を開催いたします。

展示会は、『テーマ展示2 明治150年「近代群馬のあけぼの」と題して、明治初年〜20年代の公文書を中心に展示し、本県の近代化政策に関する史料をご紹介します。』

中央集権によって進められた近代化政策。新政府から出された指令により、本県でも県の領域、税制、教育、郡市町村の区域など多岐にわたる政策がなされました。本県に出された指令書を編冊した『御指令本書』の中には、「大久保利通」、「木戸孝允」、「伊藤博文」といった

歴史上著名な人物の記名押印も見て取れます。政府からの指令書や本県の政策に関する史料のうち、特徴的なものを紹介する今回の展示会。ぜひ皆様の目で、「群馬の始まり」、その一部をご覧ください。

今後の行事予定

★テーマ展示1「上州の幕末・明治維新

150年前のふるさと」

11月4日(日)まで

※開館記念日行事展示解説会

平成30年10月27日(土) の計3回

1回 10時30分〜11時00分

2回 11時30分〜12時00分

3回 15時40分〜16時10分

★テーマ展示2「近代群馬のあけぼの」

平成30年11月17日(土)

〜平成31年2月24日(日)

★新規公開文書展2019

平成31年3月9日(土)

〜7月7日(日)

※詳細は文書館HPを

「ご覧ください」

発行／群馬県立文書館

<http://www.archives.pref.gunma.jp>

題字／岡庭征人書